

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	(1) 「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 (2) 「日本人としての美徳を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロンランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質」を培う。						
重点目標	I 知育の推進 II 徳育の充実 III 健康な身体の育成 IV 豊かな生活の追求 V 家庭地域との連携 VI 生徒募集の充実 VII 教育施設設備の活用						
目 標	評価項目	令和6年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標	令和6年度実施状況	学校自己評価		学校関係者評価	
				評価	教員コメント (73名) ▲：改善 ◇：提言	評価	評価委員コメント (7名) ▲：改善 ◇：提言
一 知育の推進	授業の充実と 難関大学進学に向け啓発・ 学びの自覚向上	① 数・英等で発展学習実施 3grp 編成と運行の工夫 英検 3/P2/2 級指導 (放課後等)	① 各学年英数の 3grp 習熟度編成を実施。時期、編成変え等は学年の実情に合わせた。概ね機能している。フォロー指導について工夫をしていきたい。	A 29% B 56% C 9% D 6%	・学力差が大きい中で習熟度学習を英語数学で実施し、底上げを行っている。 ・キャリア教育の実施がどの程度生徒の学習意欲向上につながっているかは分からないが、積極的にキャリア教育を行っている。 ・英語検定での伸びが素晴らしい。 ・授業時数が多いことを活かした先取り学習が実践されている。 ▲学力レベルの差が大きく、学力の高い生徒を伸ばしつつ底辺の底上げが難しい。	A 14% B 86% C 0% D 0%	・学力差がある中、個人個人の目標をどのように持たせるのか難しい面もあるかと思いますが、生徒に寄り添ったご指導を今後もお願いしたい。 ◇チーム制で学力向上に向けて競わせる施策を工夫してみてはどうか。 ◇高校受験を経験しない分学力レベルの底上げに力を入れてほしい。 ・私立中学へ入ったからには大学受験までの6年間で早期の対策や勉強によって難関大学へ進学できるようにしてもらおうと公立中学との差が出ると思う。 ・生徒の成績が上がるよう先生方が努力してくださっていると感じられる。 ◇習熟度学習について期待している。全体的な底上げに向けて、ぜひ進めてほしい。 ・中学生のうちからキャリアについて学ぶのは将来の進路を考えるにも有益だと思う。
		② 国・数・英等で反復学習、底上げ推進 各単元の各問題演習の達成率共有	② 日常的に小テスト、課題、演習を適度に取り組んだ。達成度確認の演習や単元テストなどの工夫を検討したい。				
		③ 補習補強の柔軟な実施、自己学習力の育成 ICT 活用：スタディサブリ運用の工夫 デジタル教材の運用の工夫 放課後プロジェクトの活用 ：放/P 各単元の各問題演習の未達成部分の補習 授業のライブ配信	③ 課題を日常的計画的に出すことと単元ごとの達成度に応じて補習等に取り組ませることを推進し、習慣化させたい。				
		④ 進路講演・キャリア教育等啓発指導・活動を実施 上級生、OB、進路担当、学年、外部講師招へい MIRAI Project (M/P) 時数増し 企業と提携しキャリア教育推進	④ 2月に J3 対象進路講演実施。 9月から2月にかけて、全学年探求学習 (M/P) を実施。(株) トゥワイス・リサーチ・インスティテュートが提供する「TWICE PLAN」の「グローバルリサーチワーク」、「企業インターンワーク」を活用し、社会課題解決学習や企業インターン体験活動を行った。PC を使い G/W を通して、解決策を導き出した。				
		⑤ 学力推移調査前後の学級／学年指導 個別目標設定や情報共有 (中高関係職員)	⑤ 実力テストの結果を共有し、個別と学年の目標を意識し事前事後指導や授業、進路指導に活かした。 中高共有フォルダーを設けた。				
		⑥ 授業計画、副教材の見直し	⑥ 大きな変更は特になし。運用を状況に合わせ若干調整した。				
		⑦ 学習時間記録と把握 個別／一斉指導 フィードバック (FB) による 家庭との協働充実 一斉指導	⑦ 学習計画指導や記録等を書き残す際の手だてを定めておきたい。学校側から懇談会等々において情報提供していきたい。				
	外部模試等で 学力把握	① ベネッセ学力推移調査三科目受験と事後指導 64 以上 60 以上 50 以上 40 以上 J3 1(3)% 6(5)% 30(21)% 48(38)% J2 3(3)% 6(4)% 32(24)% 45(40)% J1 3(5)% 4(8)% 32(26)% 40(55)%	① J3 9月② 64< 1% 60< 3% 50< 33% 40< 44% 4月① 64< 1% 60< 1% 50< 26% 40< 51% 最上位層育成に課題が残ったが、底上げに成果を収めた。学習集団づくりも大きなポイントだった。				

	在籍 J3 67名 J2 62名 J1 65名	※J1 は第一回目以降検討 ※それぞれの数値は単純の数値を表す ※（ ）内は令和5年度の目標数値 ② 実力確認テスト（明誠高校入試）受験 J 3：目標進路の学力水準達成 五科目 J 2：基礎基本問題の習熟と確認 三科目 ③ 英検受験 年度末（2月）の時点 J3 準2級以上 19(14)% 3級 39(46)% J2 3級以上 29(40)% 4級 43(35)% J1 4級以上 32(35)% 5級 45(45)% ※J1 は第一回目以降検討 ※それぞれの数値は単純の数値を表す ※（ ）内の数値は令和5年度の目標数値 ④ 各試験結果受取後の一斉学級／学年指導 情報や目標の共有 (中学部・高等部・教科担当)	J2 1月③ 64< 3% 60< 3% 50< 40% 40< 44% 9月② 64< 0% 60< 3% 50< 33% 40< 42% 4月① 64< 0% 60< 3% 50< 24% 40< 50% 底上げが進んだ。学習集団づくりや最上位層の育成にも期待がかかる。 J1 1月③ 64< 3% 60< 3% 50< 27% 40< 37% 9月② 64< 3% 60< 0% 50< 31% 40< 36% 4月① 64< 0% 60< 0% 50< 28% 40< 43% 最上位層が複数出た。中位層に刺激策を施し、また学習集団づくりを継続し、底上げをさらにねらいたい。 ②J3 日頃の努力の成果を堅実に発揮することができた。学習環境が年度後半以降日増しに整い、学習に勤しむ姿が日常的となった。目標進路水準にまだ及ばない点については引き続き対策を施し、3月下旬のスタディサポートに備えさせたい。 J2 概ね例年同様既習事項に対してできる範囲内で解答している。上級生同等以上の成果を出した者もあり、4月のベネッセテストを意識しつつ、次の学習集団づくりや対策に向かっていきたい。 ③ J3 2級 準2級 3級 4級 5級 2月 3(4)% 28(18)% 37(38)% 18(21)% 4(13)% 10月 3(1)% 20(14)% 43(40)% 23(26)% 4(13)% 良好な取り組みにより、全体的な底上げが徐々に進んだ。 J2 2級 準2級 3級 4級 5級 2月 0(1)% 8(16)% 30(27)% 35(25)% 19(10)% 10月 0(0)% 3(6)% 33(18)% 38(31)% 22(22)% 好成績を出す層が厚くなってきた。全体で一層盛り上がっていく環境を築き上げていきたい。1級 2%。 J1 2級 準2級 3級 4級 5級 2月 2(0)% 3(3)% 9(17)% 40(35)% 31(38)% 10月 1(0)% 0(2)% 8(6)% 23(34)% 35(39)% 概ね受験意欲が良く、高い成績を出す者もいる。功を焦ることなく、堅実に学習を進めていきたい。 ④ 各学力層の到達度の管理とフォロー指導の充実が求められる。	A 26% B 56% C 7% D 11%	・微増ながら成績が伸びている。 ▲具体的な模試対策的なものを実施しているかが分からない。通常の指導だけでは模試の成績は伸びない。 ◇理科社会の外部模試の実施をお願いしたい。	A 14% B 72% C 0% D 14%	・学力向上には生徒の意欲が何より必要。底上げが進んだのは先生との信頼関係も良い影響を与えていると感じる。さらなる向上を期待したい。 ・英検に力を入れていることが大学受験に有利であるので、中学から頑張っていることは良いと思う。 ・外部模試は、積極的に利用することが望まれる。公立校との差別化になるのではないかな。 ・英検受験で意欲が高いことは喜ばしい。引き続き、ご指導をお願いしたい。
--	--	---	--	---	---	---	---

一 知 育 の 推 進	生きる力や総合 力をはぐくむ活 動の設定	① 学習・体験活動等とその目標成果の整理・ 広報・見える化・発表等を通し、主体性、総合力 育成の場とする 行事ごとの一斉指導 手立ての引き継ぎ ・MIRAI Project キャリア教育推進 全学年 後期より 配当時間増加 ・体験入学会運営と校内ツアー実施 J2 6月 ・説明会のプレゼン担当や体験学習会の講師 ／助手 内進生 J1～S 1 通年 					

		② 講演や交流会の実施・探求活動 J1 郷土・企業 J2 医療・企業・進路 J3 医療・企業・進路 自己分析と展望 ③ 英会話授業【週1回】とアウトプット実践 「Metro」の計画的活用 J1～J3 ④ 禅寺の活用 学校理解の促進とヒントの獲得 ⑤ 日本文化・国際教養講話／講演実施	② J1 10月竜ヶ岩洞・フラワーパーク探訪、大塚製薬、10月「薬物の危険性・正しい薬の飲み方」警察・学校薬剤師による講演 J2 10月「薬物の危険性・正しい薬の飲み方」警察・学校薬剤師による講演、10月民間企業センター探訪、1月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽 J3 4月山梨県リニア見学センター見学、10月「薬物の危険性・正しい薬の飲み方」警察・学校薬剤師による講演、1月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽、3月進路課長進路講話 「MIRAI Project」はJ2J3の同時展開実施。学級学年内で中間と最終の発表・コンテストを経て代表チームを決定した。代表チームによる発表会は内容的に充実した。J1は上級生をOL視聴をすることにより学びを深めた。今年度は運営の段取りのよさもあり、活動が発展した。 ③ TT授業で副教材「METRO」を採用し、年間計画に忠実に授業を展開することができた。 ④ J2 4月可睡斎宿泊研修実施。道徳授業と併せて自分を見つめるきっかけを得るための場とした。 ⑤ X月全学年ミニ屏風づくりを実施、計2hで地元を象徴的に表す絵付けを行った。事前学習や準備が不足した。段取りや評価の部分においても時間が不足していたと思う。		▲国際教養養成に関してはあまり印象にない。		◇何事もやってみてほしい。道は自ずと拓けてくる。
Ⅱ 徳育の充実	基本的生活習慣の確立・理解と自己評価	① 身だしなみと挨拶の指導 校風検査【1回／月】 事前事後指導の充実 ② TP0に合わせた所作・マナー・授業態度等を発達段階をふまえて指導検証する。 打合せ、部会等にて 情報交換し一斉指導の手立てを共有する。 ③ 私物貴重品管理 整理整頓・清掃指導の徹底 振り返り：なぜ必要かを理解 ④ 欠席・遅刻・早退の減少 基本的生活習慣の充実 振り返り：なぜ必要かを理解	① 月例校風検査は男女別で、複数の担当者で継続実施。頭髪以外は担任によるフォロー指導を行った（3年目）。爪の長さ、ズボンの折り目不足が少し目立つ。 ② 概ね、SNS対策や人間関係の問題に関して早めに対応できた。所作や態度の指導に関しては多少工夫が必要な観がある。中高一貫の意義を踏まえ、全員で即実践の場所としていきたい。 ③ 概ね適切に指導や管理が行われている。日常生活には隙は必ずあり、油断慢心することなく注意を払っていききたい。啓発の部分では全体指導も必要ではないかと思う。 ④ 通年欠席等一部目立つものの、概ね悪くはない。良好な学級もある。後期では流感の影響で増加し、不安定な傾向も断続的に見られた。気持ちや心構えについて継続的に啓発指導を要すると思う。	A 24% B 65% C 10% D 1%	・学年が上がるにつれ生活態度に落ち着きがみられている。 ・ロッカーなどの整頓も学年が上がるにつれ身についている。 ・各種学校行事が活かされているのでは・・・。 ・朝礼から終礼まで、しっかりと生徒を育てている。	A 0% B 100% C 0% D 0%	▲教科の勉強も大事だが挨拶のできる人になって欲しい。 ・身だしなみ、挨拶は指導する先生方も大変ですが、継続していただきたいと思います。 ◇欠席、遅刻、早退の数値、経年比較を載せてほしい。 ・身だしなみは良い。いつ学校に行っても服装が乱れている生徒はいない。 ◇挨拶は高校生をお手本としてぜひ進めていってほしい。

		⑤ 基本的生活習慣近況について情報発信共有 家庭や学校全体の現状確認と指導力充実 生徒の自尊感情向上	⑤ 各種アンケートからの情報を即共有し対策を講じた。中学部通信や学級通信において、学校生活の生の情報を伝えたり、啓発的な内容をタイムリーに提供した。				
	特設道徳や実践的生徒指導の機会充実	① 本校理念の浸透、一斉道徳講話実施【6回】 集会実施【3回】 ② ボランティアの実施 ③ 自律性と社会性を培う場を設定し、実践力行動力向上を図る リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 ④ 交通安全マナーの指導と実践 交通安全教室実施 ⑤ 道徳教科書ノートを年間計画で使用 振り返りをし、共有する。 ⑥ 情報端末使用時の人権問題啓発指導 講演や集会実施 ⑦ 「いじめ」皆無の指導 【調査3回／年】 三配りの精神の涵養 ⑧ 成果や伸長について情報発信 現状把握と指導力向上	① J1年3回、全学年年3回、計画的に実施した。「初心」や「先度他心」について時宜に即して講話行い、学校生活のヒントを示した。 ② 全学年のキャンペーン的な取り組みは未実施。入試関連行事に登壇したり、行事に積極的に活動を行う生徒が増えた。 ③ 主要行事、入試関連行事、MIRAI Project 探求活動等において主体的にグループ活動を展開した。MIRAI Project が定着した観がある。 ④ 6月に警察による交通安全教室を体育館で実施。前年度を踏襲し、基本的な内容をバランスよく学べた。 ⑤ 教科書・ノートの活用を励行し、満遍なく学習していきたい。 ⑥ 年度当初端末の取り扱いのルールを周知徹底した。端末使用に関しての大きな問題は起きなかった。定期的な啓発と注意の呼びかけも功を奏し、それらも大事であることを痛感。 ⑦ 「いじめアンケート」と「生活アンケート」の内容を精査し、タイムリーに懇ろな生徒指導をおこなうことができた。全体の意識が相互に高まり、機能したのではないかと思う。また、集会指導を通して、先渡他心や三配りの精神について啓発を計画的に実施した。昨年度に引き続き、長い目で取り組んでいる。 ⑧ 日常の情報共有や懇談会・面談、保護者との連絡を丁寧に機能させた。中学部通信の発行は月ごとの担当による発行を踏襲。近況や啓発、読書案内、予定などの内容を興味深い内容を展開し、よい流れを継続できた。	A 20% B 62% C 9% D 9%	・小さいいざこざのうちに職員が熱心に対応している。 ・中学部通信や学級通信の内容が自己啓発的な内容が盛り込まれ、とても良い内容になっている。 ▲行動化まで至っていないこともある。	A 14% B 86% C 0% D 0%	・いろいろな取り組みが行われており良い。 ・問題が小さいうちに早めの対応ができていることは安心感につながる。 ◇いじめについて、先生方が発見対応した事例がどれくらいあるのか、どの程度職員間で共有されたのか数値を表示してもらえないか。 ◇地域と連携したボランティア活動をおこなわないのか。 ・中学生のヘルメット着用は良い。 ◇今後もしいじめが起きないよう取り組んでほしい。
	個の尊重と主体性の醸成	① 情報交換で個の把握 ② メイセイダイアリの点検、熟読とコメント ③ 養護・カウンセラー・生徒課等チームの活用	① 情報交換が迅速で、協力的な対応と指導に結びついた。 ② 生活帳を使用し、意思疎通や問題解決に活かした。時宜良く足並みを揃えて活用するのも一策。 ③ カウンセリングを定期的に活用し、個別指導と協働に活かした。今年度はもう1名のSCに臨時に支援をいただき、知見を活かし、指導の精度を向上させた。	A 27% B 53% C 14% D 6%	・生徒一人一人に向き合っている様子が伺える。 ・生徒の主体性の醸成に各種行事を通してよく取り組まれている。 ・伸び伸びと学校生活を送れている。	A 14% B 72% C 0% D 0%	・生徒一人一人に愛情を注いでいることが伺われる。

		④ 生徒理解研修会 【全職員で実施】 成長面・プラス面等伝達 データ共有 ⑤ 心理検査の実施と評価の活用 ⑥ 随時良い点や現れ・変化をフィードバック、 全体で共有	④ フォーマットを変更し、生活や行動のあらわれを長く共有し、生徒理解と指導の向上につながるように努めた。中高一貫の生徒指導を意識。 ⑤ 検査は未実施。各アンケートやカウンセリングを活用し、生徒の様子を複合的に理解することに努めた。タイムリーによく機能していると考ええる。 ⑥ 職員間や家庭と学校間のコミュニケーションが適切に懇ろに行われている。根気よく注意深い対応が日々の生活を支え、そして前進させている。				
目 健康な身体 の育成	団体行事の用意 団体行動や 行事運営の基本 も学習	① スポーツデイ実施 【参加率95%以上、（2）回／年】 相手・チームメイト・周囲への理解・ 敬意・調和と切磋琢磨 ② 耐寒持久走取り組みによる身心の錬磨 事前の安定した生活習慣・体育での 的確な準備・啓発 【参加率95%以上】 ③ 体育大会を活用し、 チームワーク醸成・団体種目の記録向上 ④ 武道奨励 時数の確保 武道実施ねらいの理解と浸透 ⑤ 部活動奨励 【参加率85%以上】 ⑥ ダンスデイ実施 明朗快活爽やかで、円滑かつ規律ある運行 周囲への理解と感謝の気持ち 創意工夫 【参加率95%以上】	① 7月 サッカー(男子)、ドッジボール(女子)を実施した実施時期は要検討。 3月アルティメット(男子)とドッジボール(女子)を実施した。参加率達成、いずれも意欲的で学校生活に欠かせない。 ② 栃山川土手コースからグランドコースに開設22年目にて変更。全体や個々をよく観察できる点、安全管理の点や一体感など長所をよく実感理解した。参加率は目標を割った。タイムとラップ管理に一工夫が必要か。 ③ 簡略化行進4年目。制限は解かれ多少元気や活気が回復した。各種競技はバランスよく、円滑な運行が行われていると感じる。中学生も元気に取り組んだ。 ④ 男女武道の取り組みとして柔剣を実施した。柔道衣等は着用しない。基本を学び、ねらいの理解と浸透に努めた。 ⑤ 個性伸長と集団育成をねらいとし、参加を促す。 加入率： J11：66%、 J12：62%、 J21：81%、 J22：74%、 J31：96%、 J32：100%、 全体：79.9% 前年度より12.7%減少。過去最大の減少。 意識の変化を感じなくもない。外部団体に参加している者が増えたか。様子に注意し、諸運営の参考にしたい。 ⑥ 11月予定通り実施。参観者は開催中100名前後で盛況だった。J3中心に役割分担を行い、終始円滑に会を運営。節度を適度に保ち活発に演技と鑑賞を楽しむ	A 41% B 47% C 9% D 3%	・行事も多く、生徒もよく参加していると思う。 ・スポーツデイ、耐寒持久走、体育大会と生徒が心身ともに成長している姿がうかがえる。 ・高校の行事と共に行うことができるのはメリット。	A 28% B 58% C 0% D 14%	▲高校の行事と一緒に参加するメリットをもっと出していった方が良いと思う。 ◇学校の行事（学園祭など）に小学生を招待し、楽しそうに思ってもらえるようにすると良いだろう。 ・耐寒持久走のコースが変更になったのは心残りである。安全面では良いと思うが・・・。 ◇部活動の参加率の低下が気になる。外部団体への参加など時代の流れもあると思うがしっかり原因を分析してほしい。 ・楽しそうに取り組んでいる姿をよく見かける。

			ことができた。開会式や閉会式、演舞前後の挨拶紹介をもう少ししていねいになるとさらに好印象になると思う。				
≧ 豊かな生活の追求	特別活動や課外活動の準備と充実	① キャリア教育の一斉の主体的計画的取り組み 探求:MIRAI Project 特活・MD内に設定 ② 青藍祭に、部・学年・学級で参加 創意工夫し、実践力を磨く場とする。 リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 展示物には価値観教育への成果を記す。 ③ フィールドワーク【（2）回／年】、芸術鑑賞 自身の思考力や発想力向上に資する体験 学習を行う。 事前事後指導の充実 ④ 行事や活動のまとめと発表・展示 学びについて自己分析し、学校・日常生活の 改善に向けてヒントを得る。	① 9月から2月の間「総合」の時間を25時間前後配当し探求活動を実施。各学年は約15グループに分かれ、企業インターンワークに取り組んだ。グループワークで課題解決を試み、プレゼンのコンテストを学級から、学年、学校へと発展させ、英知を競演した。内容、計画、チームワーク等主体性と社会性を磨く好機となった。 ② J1はオリエンテーションキャンプ、J2は可睡斎の展示を行い踏襲。J3はアトラクションを展開、計画立案交渉、準備、進捗管理、会場セットやオブジェクト等熱心に取り組み協働的な学びの場となった。片付け等事後対応も例年同様よく、毎回感心させられる。 ③ 4月と10月に予定通り各学年行事を実施し、発達段階に応じた良い体験をした。事前指導にもう一工夫ほしい観はある。鑑賞教室では中国太陽芸術団による芸能アラカルトを鑑賞し、楽しんだ。また、雑技の奥深さをあらためて実感した。 ④ 常套手段としてワークシートによる掲示を実施。また一方、プレゼンを積極的に作成し、タブレットの活用率も向上させた。グループワークとアウトプットの機会は増加した。DXの意識は上がったのではないかと思う。フォロー指導によってDXの啓発も工夫していくとよいと思う。	A 37% B 46% C 10% D 7%	・様々な行事に取り組んでいると思われる。 ◇部活動入部者が減少傾向だが、外部団体での諸活動に所属する生徒も増加してきている。 集計で体育・文化活動で外部活動をしている生徒数を掌握し、そちらの参加が多ければそれも含めて奨励してあげればいいと思う。	A 28% B 72% C 0% D 0%	・行事に参加することでコミュニケーションをとることが自然に身についていく良い内容になっている。 ◇ループリック評価で効果測定してみてはいいかどうか。それらを共有したり、公表するのはどうか。

		⑤ 学習集団の向上（行事・授業等活用） プレゼンや議論を活かし、洞察力、コミュニケーション力や創意工夫する力を上げる。 学年混成集団で活動することにより、自他への関心を深め、共通体験の価値の理解を深める。 ⑥ 各種団体の文芸コンテストに参加 想像力を発揮し、自他の理解を深める。 ⑦ 自尊感情や自己有用感を高め、学び合う仲間であることを自覚する。 帰属意識を得る。	⑤ 一つ一つの活動の重点目標の繋がりを踏まえ、年間の運営を意識した。育てる生徒像を学年と部で共有した。探求活動において学級、学年、中学でプレゼンを実施したことは大きな意義があった。中一に対しては、発達段階を意識し、新しい内容に取り組んだ。生徒の生きる力向上に寄与した。生徒も教員も根気強く計画的に取り組むことができたことは今後の励みになる。 ⑥ 定番のコンテスト等に参加を継続した。入選する作品もしばしばあり、機運や意識は向上した。普段の読書等から初め、全体の意識向上や雰囲気づくりにつながった。 ⑦ ワークシートの紙面等活用をさらに工夫し、自己分析を一層促したい。 年複数回のアンケートにおいても生徒は正直に振り返りをおこなっている。適時に生徒たちにフィードバックし、励まし・育成のポイントにしていきたい。 目立った活動実績に対して必ず顕彰し、ほめ言葉をかけてやりたい。同時に学び仲間や家庭の理解や支援に対しても敬意を言葉で直接・間接に表し、自他の成長を促進し、喜びや達成感を共有していきたい。				
--	--	---	---	--	--	--	--

V 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	コ ミュ ニ ケ ー シ ョ ン の 増 加	① 面談の奨励（希望面談も用意）【4回／年】 ② 懇談会・保護者会等実施 ③ 行事関係文書・アンケート等配布・配信【2週間以上前】 ④ 内進高校生の情報も含め生徒・中学部近況の発信 授業配信	① 4月新年度個別面談、7・8月夏休み三者面談、11月個別面談、6・11月オープンキャンパス期間希望面談、9月～2月適宜個別面談による生活・学習進級指導等実施。 J3に関して高校進級指導を念入りに実施。 カウンセラー・養護教諭と連携し、家庭とのコミュニケーションにも注意した。 ② 6月地区別懇談会（学級／学年懇談会とした） 9月 J3修学旅行説明会、2月 学年学級懇談会 保護者懇談会の出席率は50～80%で増加し、昨今の社会状況等々を鑑みるとよい（頼もしい）ものではないかと思う。 ③ 各行事2週間前後前に通知を配布または配信した。さくら連絡網による通知は常套手段として活用。 ④ 3月 J1 J2J3 対象に大学進学の基本や現状について進路課長より説明した。 目標の再確認と進路意識の高揚を図った。 内進生の進路啓発機会は早期から発達段階をふまえて確保したい。 授業配信に関しては、全体で一斉に行うものは前期において数日間ほどあった。学級によって臨機応変に個別対応する場合もあり、オンライン化が定着した観がある。 接続に関して注意や配慮を要する場面もあったが、協力しながら適切に対応できた。	A 27% B 50% C 9% D 14%	・地区懇談会を学級懇談会に変更したことは実情に沿っており良かったと思う。 ・各担任がキメ細やかに対応できている。 ◇例えば、清掃区域を拡げての拡大清掃等で、地元大洲地区等ともしっかり連携できるのではないかと。	A 0% B 86% C 0% D 14%	◇拡大清掃で地元の方々と連携をはかるのは良いアイデアだと思う。
--	--	---	--	--	---	---	--

V 家庭・地域との連携	広報活動の充実	① 中学部通信等の発行【月次】 ② さくら連絡網・SNS の活用 課題学習状況の確認 ③ オープンキャンパスや説明会等でのアンケート実施 ④ 行事や発表会の開放	① 月次担当制とした。近況と顕彰・啓発と学校理解の場とした。タイムイリーに発行され、清々しく学校の近況を伝達し、家庭との風通しを良くする点でも機能した。定着した観がある。 ② お知らせの配信や平時の連絡手段として情報提供し、よく機能した。なくてはならない存在になった。課題のチェックについては段取りも含めて工夫をしていきたい。 ③ オープンキャンパス時アンケート内の各意見・提案や質問に対し適切に対応した。参加率は30～50%弱で、若干増加した。 ④ 青藍祭、半日入学、体育大会、ダンスデイ、耐寒持久走などについて開放。ダンスデイは盛況だった。MIRAI Project についても工夫をさらに進めていきたい。	A 24% B 51% C 14% D 11%	・計画的に発行され、また内容もよかった。 ◇さくら連絡網の活用方法はまだありそう。 ・アンケート内の意見が比較的好意的だったと思う。 ◇行事の開放方法はまだ工夫できるかもしれない。	A 14% B 72% C 0% D 14%	◇細やかな情報提供を継続してほしい。 ◇連絡網でテストの結果を個別に送ってくれると親はありがたいと思います。 ◇さくら連絡網はもっと活用していくのが良いと思う（学校と保護者がダイレクトにつながる）。成績表の通知にも有効活用してほしい。
VI 生徒募集	渉外活動の充実	① 各行事の推進とフォロー作業 ・説明会 現役生徒の活用 アンケート結果の活用（改善・FB・PR等） ・半日体験入学 J2 生徒の活用 ・理科／英語体験学習会 現役生徒の活用 ・講習会 5教科展開 ・オープンテスト ・名簿の整理、DM の活用 ※実績数（ ）内数値は昨年度の数値を表す	① ・説明会 5/12 :55(50)名、6/22 :71(63)、7/13 :55(49)、8/3 :33(70)、9/14 :67(34)、 11/9 :60(100), 11/23 : 26, 2/8 :40 オープンテストや体験学習会と同時開催。生徒を登壇させ保護者の学校理解を促進した。 ・6年理科体験学習会 今年度は未実施 例年 30～40 名参加 ・講習会 ① 9/4 :39(49)名 ②10/9 :46(58)名 ・オープン ①7/13 :77(83)名 ②9/14 :77(96)名 ③11/9 :80(92)名 説明会時、学力と学校理解の面を明確に説明した。クオリティ向上も留意し、引き続き活動を展開する必要がある。同時に呼び込み策も練っていきたい。	A 26% B 50% C 14% D 10%	・体験会はいいつも盛況な印象。 ・入試とオープンテストに関して、来年度から難易度やテスト形態を大幅に変えるということで、やってみて何かあれば来年度提言します。 ・子どもの減少に加え景気の悪化、生活費の上昇と私立中学を取り巻く環境は悪化している中で生徒確保のために努力されている。 ◇明誠の魅力をもっと発信したい。 ▲小学生を対象とした英語・理科等の体験活動参加人数が極端に減少した。再考を要する。	A 14% B 72% C 0% D 14%	◇いわゆる体験会も良いと思いますが、塾風に勉強のコツ等を教え、「わかった！ 楽しい！」を学べる体験会も良いのではないかと思います

		② 小学校や塾への渉外活動 ③ 各種行事の活用 ④ リーフレット・ポスター作成グッズの活用	・入試 一次 68 (75) 名 : 単 53 (63) 併 15 (12) 二次 2 (2) 名 : 単 2 (2) 併 0 (0) 募集定員 70 名になり 7 年目、58 (65) 名入学予定。併願が 3 名増加。単願率が 78 (84) %に減少し、例年並みになった。女子は 55 (42) %に増加した。受験者数は減少した。併願生の戻りは 4 名。 ・4・5 年説明会 8/3 (土) : 33 (49) 名 11/23 (土) : 24 (50) 名 2/10 (土) : 40 (100) 名 ・4・5 年体験学習会 8/3 (土) : 50 (50) 名 理科 11/25 (土) : 26 (49) 名 英語 2/10 (土) : 54 (88) 名 理科 実施日時やキャンペーンなど、準備や段取りに留意していきたい。 ② 小学校訪問約 100 校。 5・6 月 (学園祭前) ・7 月 (理科体験前) ・10 月 (英語体験前) ・1 月 (理科体験前) 等を基本として訪問した。5 月はアポを取り訪問した。 志榛・小笠・静岡地区諸々の塾を複数教員が分担し訪問。「学校案内」・「入試行事リーフレット」・学園祭／体験学習案内・通学バス案内・通学費補助案内・過去問題等配布。また行事の都度 DM を送付、乃至電話で各行事の参加を促進した。 ③ 学園祭、定期演奏会等学校関係者に対して招待した。 ④ 入試行事年間予定リーフレット、各種リーフ (講習会・オープンテスト・・・体験学習会・通学補助支給等) を配布ないし送付。体験学習会用自家製ポスター掲示をを校内外で適時推進した。			・小学校や塾への訪問、行事参加への働きかけ等日程を組むのも簡単ではない中努力し継続されていらっしゃる と察します。 ◇卒業生のメッセージの発信を行えるとよいと思う。 ・小学校の訪問数は素晴らしい。より多くの人に明誠を知ってもらえる良い機会だと思う。これからも続けてほしい。
--	--	--	--	--	--	---

Ⅶ 教 育 施 設 ・ 設 備 の 活 用	快適な教育環境の実現	① 教室内外整理整頓、施錠管理、電源管理の徹底、管理目的の理解 【放課後巡回 複数回／日】	① 概ね通年良い整理整頓状況を維持することができた。行事の後は、ロッカー内の復元が遅れることが若干あったり、ロッカー・机の中・鞆の中等バランスよく整頓ができてないことがあったり、注意を要する時もあった。 移動教室時の机上片付けや更衣の整頓、電源管理等意識的に行動ができていますが、十分ではないことも留意しておきたい。 清掃後の雑巾洗いと整頓については一部要注意である。いずれもSHR やLHR時に対応や啓発は即時可能である。	A 26% B 50% C 14% D 10%	・ロッカー整頓も学年が上がるにつれ良くなって いる。指導が伺える。 ・トイレ清掃もしっかり行われている。 ・老朽化は否めないが、公立中学にはない施設を共有できるのは魅力。 ◇予算にかぎりがあるものの、さらに快適な授業ができる施設設備投資が不可欠。 ▲読書指導等が積極的になされるよう、図書室の設備を整えたい。	A 0% B 86% C 0% D 14%	・防災避難訓練は今後を見据えた良い企画がなされている。抜き打ちの訓練の実施は大切。 ・きちんと清掃が行われていると思います。
		② 駐輪場管理、管理目的の理解	② 特に目立った問題等なく、良好な状況を一年間維持した。現状把握を怠らず、使用方法について時折注意喚起、啓発指導し、トラブルの予防をしていきたい。				
		③ 設備・備品の保全 【放課後巡回 複数回／日】	③ エアコンの整備は実に有難く、また頼もしいものであった。 概ね公共物を適切に使用することができた。乱暴な扱いや行動はほぼなかった。 教室内の下壁が破損しやすいことについては周知し、啓発指導も時折行いたい。 机椅子の保全については、机の表面の消耗が進行しており、具体策が必要である。				
		④ 防災教育と訓練の実施 【2回／年】	④ 4・9月防災避難訓練を行い、ともに一次・二次避難訓練で、新しい企画も含まれていた。 4月 は二次避難場所である体育館2Fで自衛隊による防災教育も併せて実施、救助方法のデモンストレーションを見学した。一部の生徒は実演に参加。その難しさ等実体験し、全校は関心をもって見守っていた。 9月 は祝日明けの火曜日の一時間目に抜き打ちで実施。グラウンドに二次避難をした。比較的冷静に対応でき、積年の成果が発揮された。				